

「法教育」の教材作成に 興味がある方のための 教材作成

*** ワークショップ ***

[日 時] 2026年9月5日(土) 10:30~18:00 (受付:10:00~)

* [会 場] 公益社団法人商事法務研究会会議室 (日本橋駅/東京駅 徒歩5分) *

* [対 象] 法教育の教材作成に興味がある方ならどなたでも (先着20名) *

* [概 要] 法学者が法教育に適すと考える話題等を提供し、
参加者がその話題等などをもとに法教育教材を作成し、
参加者相互に意見交換・協議などを行い教材として
ブラッシュアップし、今後の授業で利用できる教材を作成する *

* [法学者] 池田弘乃先生 (山形大学人文社会科学部 [法哲学]) *

* [コーディネーター] 長島 光一先生 (帝京大学法学部) *

* [持ち物] Word搭載のPC、保存用のUSBメモリなど付属品、
教材作成で使用する資料等 *

* [参加費] 1,000 円 (昼食代込) *

* [申込方法] 氏名・所属・当日連絡がつく電話番号を明記のうえ、
法と教育学会事務局まで
メールでお申し込みください *

法と教育学会事務局

お申込み URL <http://gakkai.houkyouiku.jp/>
お問い合わせ MAIL gakkai@houkyouiku.jp






講師の紹介






池田弘乃先生 山形大学人文社会科学部（法哲学）

研究テーマは、フェミニズム法理論、ケアの倫理と法制度、性的マイノリティの人権等です。2021年の日本法哲学会学術大会「統一テーマ 法と感情」に報告者として参加したことをきっかけに、「法と感情」研究にも関心をもって少しずつ考えているところです。



法哲学専攻。東京大学法学部卒業、同大学院法学政治学研究科総合法制専攻博士課程満期退学。2014年より山形大学人文社会科学部教員。

本ワークショップに関連がありそうな  著書  論文  訳書

-  『ケアへの法哲学：フェミニズム法理論との対話』（2022年、ナカニシヤ出版）
-  『LGBTのコモン・センス：自分らしく生きられる世界へ』（2024年、第三文明社）
-  「フェミニズム法理論と感情：「法外な感情」を手がかりに」『法哲学年報2021 法と感情』（2022年、有斐閣）
-  「共感・反感・尊厳：法を成り立たせる感情について」『哲学』77号（2026年、知泉書館）
-  スーザン・バンディズ編『法と感情の哲学』（橋本祐子監訳・訳、小林史明・池田弘乃訳、2023年、勁草書房）



講義概要



〈テーマ「感情的な法学?!」〉

法と感情は、しばしば水と油の如く相いれないものとされることがあります。理性的、客観的な法に対し、感情は非合理的で、主観的なものだというわけです。それゆえ、法にとって、人々の非合理的な感情の噴出をいかに的確に統制するかが大きな課題とされることもあります。たしかに、マジョリティの一時の激情に任せて何の根拠もない立法が行われたり、裁判官が専ら自分の感情に基づいて判断を下したりするような社会には、あまり住みたくないような気がします。

しかし、感情が本当に非合理的なものなのか、と問い直してみると、心のどこかにもやもやとした感触がまとわりつかないでしょうか。また、私たちの身体や生活に密接に絡み合っている感情が、法にとってただのノイズにすぎないものなのかについては、丁寧に再検討してみてもよいような気がします。

そこで、今回の講義では、まず総論的に「法と感情」研究と呼ばれる分野について概観し、刑事法のみならず、民事法や人権法においても感情が重要な関わりをもつことを確認したいと思います。

続いて各論として、法において感情が果たす役割の可能性と限界について考えます。その際、人間の性（ジェンダー、セクシュアリティ）という、しばしば私たちの感情を大きく揺さぶるトピックを素材として取り上げます。具体的には、差別に対する怒りや、社会的に「異質」とされる人々に向けられる嫌悪といった感情です。

この講義を踏まえ、法や正義を考える際に感情が果たしている役割、そして果たすべき役割について検討するための教材を作成していただければと思います。